

【原 著】

高度な専門性と実践的な指導力を有する教師の育成プログラム
「教師力養成講座」の開発 (4)
— 実践的な指導力を有する教師の育成 —

松原 泰通 小川 潔

Development of “A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers (4):
a Program to Bring on Teachers with a High Degree of Specialization and Practical Leadership
— To Cultivate the Practical Leadership Required for Teachers —

Yasumichi MATSUBARA , Kiyoshi OGAWA

2013

岡山大学教師教育開発センター紀要 第3号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.3, March 2013

原 著

高度な専門性と実践的な指導力を有する教師の育成プログラム

「教師力養成講座」の開発(4)

—実践的な指導力を有する教師の育成—

松原 泰通^{*1} 小川 潔^{*2}

平成21年度より、年6回のペースで始めた本講座は、今年度で4年目となった。当初は、学生たちが、教員採用試験に合格したにもかかわらず、現場に出ることに不安感を持ち、相談に訪れることから、教師力をつけて、自信を持って卒業していけるようにしてやりたいと考え、この講座を立ち上げたものである。

現在は、その上に、現場からも、社会的にも、即戦力としての新採用教員が求められており、その意味で、実践力のある教員として卒業させることが大切だと考えた。その内容を報告する。

キーワード：教師力、実践的指導力、教職支援、生徒指導力、人間関係づくり

※1 松原 泰通（岡山大学教師教育開発センター）

※2 小川 潔（岡山大学教師教育開発センター）

I. はじめに

この「教師力養成講座」を始めて、4年次となった。

当初は学生たちの教員採用試験（以下 教採）発表以後の合格の喜びよりも現場に出ることの不安な様子から、どうにかしてやらなくてはという思いから「教師力」育成のために、この講座を開発したものである。

4年経過した現在、以前にも増して、現場からも、文部科学省（以下 文科省）を初め各自治体の教育委員会からも、即戦力となる教員を送り出してほしいという要望が高まってきた。

学生たちも、このような状況を教採からも、現場からも、そしてマスコミからも察知し、多くの学生が何とか力をつけたい、自信を持って卒業したい、何をしたらいいのだろう、どんなにしたら力がつくのだろうと、不安な気持ちが大きくなり、困惑した状態となっている。

この状況に、少しでも寄与できるように—実践的な指導力を有する教師の育成—を目指し、「教師力養成講座」の開発に、本年度も取り組むこととした。

全体構想

過去三年間の報告（岡山大学教師教育開発センター紀要, 第2号 (2012) PP.144-153 高度な専門性と実践的な指導力を有する教師の育成プログラム「教師力養成講座」の開発(3)）につけ加えて、講師の基調提案の前に、大学教員よりテーマについての教育的な意義、内容の大切さについて講話をしていただいた。（約15分程度）これは、本年度の新しい試みである。

新しい試み

これまでは、現場からの実践報告を中心に教師力養成講座を運営してきた。これだけでも、学生にとって新鮮な現場感覚が伝わり、教師力の観点から、内容への切り込み方、迫力、情熱、子どもへの思い、周囲への配慮、継続していく持続力など、学ぶべき点が山ほどあり、有意義で共感をもって支持されていた。本年度、その上に、岡山大学大学院教育学研究科（以下 教育学研究科）の教員により、各講座内容の意義について学問的、専門的な観点から講話していただいた。このことにより、学生たちは、これまで以上に、内容の大切さを自覚し、現場からの実践報告について、真剣に考えながら受講していた。このことは、

「理論と実践の融合」であり、現場での実践を、理論に裏付けされた形で聞くことができたと考えている。これにより、今、文科省が中心になって提唱している教師力、教育実践力が一層、学生たちの確かな力となって付いていくものと考えている。

「外国語活動」について、現場からの実践報告の前に、教育学研究科英語教育講座の高塚成信教授に、小学校における「外国語活動」の授業をする意義について講話をしていただいた。

「学級づくり」についても同様に、現場からの実践報告の前に、教育学研究科教職実践講座の渡邊満教授に、学校教育における「学級づくり」の重要性と意義について講話をしていただいた。

「学級びらき」についても同様、「学級びらき」の大切さと意義について教育学研究科教育学講座の高瀬淳准教授に講話をしていただいた。

<仮説>
 大学教員の講話および現場の校長等、講師の先生から直面している教育問題と現状、現在の取り組みの実態について基調提案していただき、学生同士でそのことを受け止め、討論を重ねると、課題の本質をつかむとともに、教師としてのあるべき姿、対応すべき教師のあり方について意識改革をしていくことができ、『教師力』の育成に役立つ。

表1 講座のタイムスケジュール 2011

時間	内容	番号
9:30 ~ 9:40	開会 (挨拶, 講師紹介)	
9:40 ~ 10:20	校長等による基調提案	①
10:20 ~ 10:30	座席移動, 休憩	
10:30 ~ 11:00	グループ討議	②
11:00 ~ 11:15	討議内容の発表, 共有	③
11:15 ~ 11:25	校長等と教職相談室担当によるまとめ	④
11:25 ~ 11:30	各自のまとめ (感想)	

表2 講座のタイムスケジュール 2012

時間	内容	番号
9:30 ~ 9:35	開会 (挨拶, 講師紹介)	
9:35 ~ 9:50	大学教員によるテーマ内容の意義についての講話	
9:50 ~ 10:30	校長等による基調提案	①
10:30 ~ 10:35	座席移動, 休憩	
10:35 ~ 10:55	グループ討議	②
10:55 ~ 11:05	討議内容の発表, 共有	③
11:05 ~ 11:30	校長等と教職相談室担当によるまとめ	④
11:30 ~ 11:35	各自のまとめ (感想)	

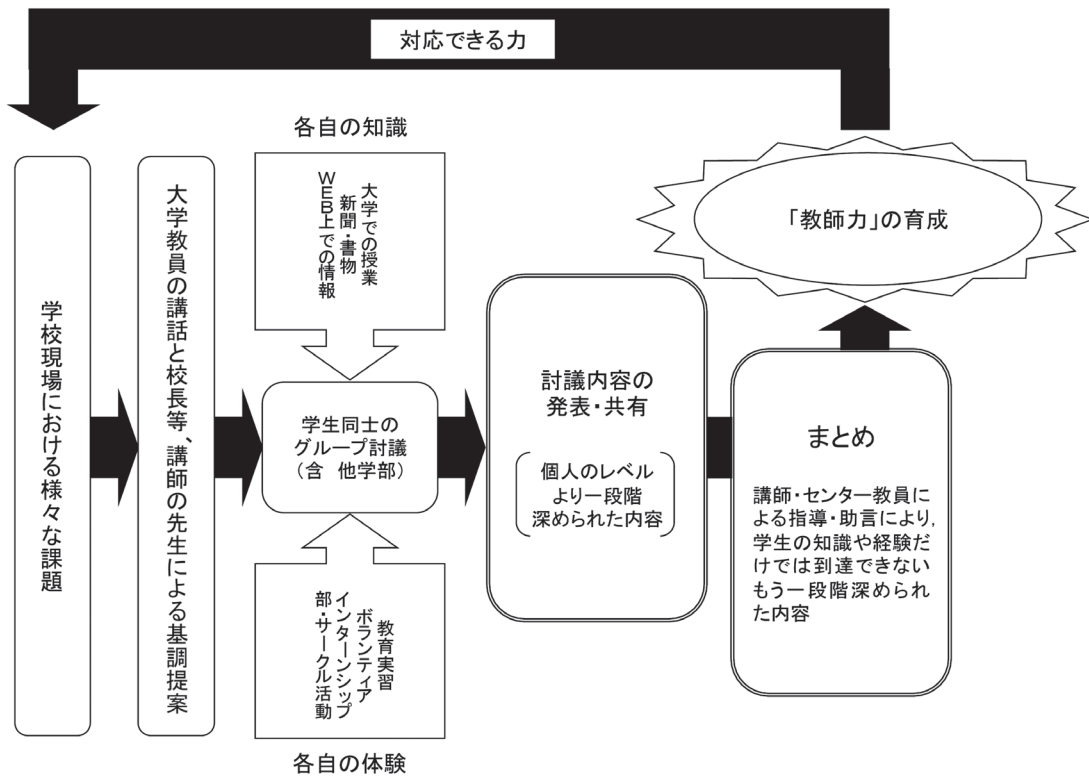


図1 全体構想

II. 本年度の「教師力養成講座」のテーマ

本年度のテーマは、学生たちの直面している課題と教育界の新しい取り組みについて取り上げ、各テーマについて、実践を積んでおられる方に講師を依頼した。

実施日	回	テーマ	講師
2012年 5月 30日	第1回	「子どもの特性を理解した生徒指導」	岡山市立中学校教頭
2012年 6月 13日	第2回	「NIEの取り組み」	岡山市立小学校教諭
2012年 10月 31日	第3回	「外国語活動」	岡山市立小学校教諭
2012年 11月 28日	第4回	「学級づくり」	岡山市立中学校教諭
2013年 1月 16日	第5回	「学級びらき」	岡山市立小学校長

2011年度は、これまでの趣旨に沿った内容として、学習指導要領の主な改善事項と、直面している課題について取り上げ、県下でもトップレベルの実践力のある講師を選んだ。

実施日	回	テーマ	講師
2011年 5月 18日	第1回	「授業で学校を変える」	岡山市立中学校長
2011年 6月 29日	第2回	「伝統文化と武道」	岡山市立中学校教諭
2011年 7月 13日	第3回	「キャリア教育」	岡山県立高等学校教諭
2011年 10月 5日	第4回	「国語教育における協同学習」	岡山市立中学校教諭
2011年 11月 2日	第5回	「保護者・地域との連携」	岡山市立小学校長
2012年 1月 18日	第6回	「教師力をつけよう」	岡山市立中学校長

2010年度は、文部科学省による学習指導要領改訂の中で、特に改善事項として強調されているテーマを取り上げ、その道での第一人者に講師を依頼した。

実施日	回	テーマ	講師
2010年 5月 19日	第1回	「学校における食育推進」	岡山市立小学校長
2010年 6月 16日	第2回	「伝え合う力の育成」	岡山市立小学校長
2010年 7月 28日	第3回	「情報教育」	岡山市立中学校長
2010年 10月 27日	第4回	「外国語教育」	岡山市立中学校教諭
2010年 12月 1日	第5回	「理数教育の充実」	岡山市立小学校長
2011年 1月 12日	第6回	「生徒指導」	教師教育開発センター准教授

2009年度は、直面している課題について、県下でもリーダー的な小・中学校の校長先生に講師を依頼した。

※ 岡山大学教育実践総合センター

実施日	回	テーマ	講師
2009年 5月 27日	第1回	「子どもたちの生活とケータイの問題」	岡山市立中学校長
2009年 6月 24日	第2回	「発達障害など課題を抱えた子どもとどうかかわるか」	岡山市立小学校長
2009年 7月 8日	第3回	「「いじめ・不登校の問題をどう考えるか」	岡山市立中学校長
2009年 10月 14日	第4回	「学校における「評価」について」	岡山市立中学校長
2009年 11月 25日	第5回	「道徳教育について」	岡山市立小学校長
2010年 1月 27日	第6回	「学校力の向上について」	岡山市立中学校長

Ⅲ. 学生の満足度

表 3 講座についてのアンケート結果

		2012年度					2012 合計	2011 合計	2010 合計	2009 合計
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)				
参加人数		23	33	26	18	18	118	179	282	274
①基調提案	平均	4.62	4.73	4.87	4.71	4.94	4.77	4.95	4.85	4.86
	SD	1.45	0.64	0.12	0.35	0.06	0.54	0.21	0.42	0.41
②話し合い	平均	4.05	4.36	4.25	4.35	4.13	4.25	4.40	4.47	4.46
	SD	0.61	0.43	0.37	0.37	0.12	0.39	0.65	0.67	0.57
③発言	平均	3.95	4.06	3.83	4.00	3.80	3.94	3.92	4.11	4.01
	SD	0.94	0.51	0.93	0.38	0.46	0.64	0.78	0.74	0.78
④長さ	平均	4.42	4.03	4.25	4.18	4.60	4.25	4.07	4.30	4.16
	SD	1.04	1.77	0.80	0.90	0.54	1.11	1.10	0.88	0.88
⑤まとめ	平均	5.00	4.91	4.83	4.94	4.93	4.92	4.91	4.89	4.80
	SD	0.00	0.09	0.14	0.06	0.06	0.08	0.35	0.35	0.51
⑥考えたこと	平均	4.95	4.85	4.92	4.94	5.00	4.92	4.97	4.93	4.95
	SD	0.05	0.13	0.08	0.06	0.00	0.08	0.17	0.25	0.21
⑦次回講座	平均	4.52	4.75	4.61	4.88	4.65	4.68	4.84	4.89	4.83
	SD	0.86	0.58	0.79	0.11	0.99	0.66	0.63	0.48	0.61

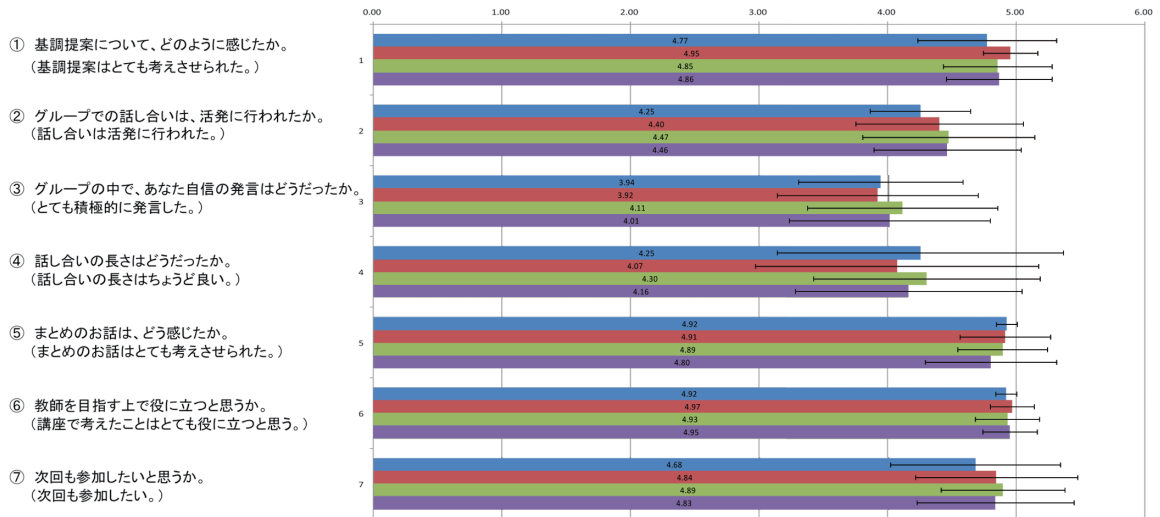


図 2 年度ごとの平均・標準偏差



表 3 は、2012 年度の講座で行ったアンケート結果の平均値と標準偏差、各年度全体の平均値と標準偏差である。図 2 は、4 年間の年度全体の平均値と標準偏差をグラフに表したものである。本講座は、学生のニーズを的確にとらえ、質の高い内容を提供することができていたと考えられる

高度な専門性と実践的な指導力を有する教師の育成プログラム「教師力養成講座」の開発(4) ー実践的な指導力を有する教師の育成ー

IV. 受講生の所属

2012年度

所属	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	教育学研究科	特別別科特別専攻科*	他学部							他学部合計	合計		
	小学校	中学校	障害児	幼児教育				理学部	農学部	工学部	環境理工学部	マッチングプログラムコース	文学部	自然科学博士前期学系			社会文化科学博士前期	
(1)	4	4	2	0	1	7	0	2	0	0	0	0	0	1	1	1	5	23
(2)	19	4	1	0	2	3	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	4	33
(3)	17	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3	1	0	6	26
(4)	5	8	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	1	0	5	18
(5)	12	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	18
合計	57	18	5	0	4	11	1	9	0	0	0	0	0	8	4	1	22	118
%	46.3	15.3	4.2	-	3.4	9.3	0.8	7.6	-	-	-	-	-	6.6	3.4	0.8	18.6	100

* 特別別科＝養護教諭特別別科, 特別専攻科＝特別支援教育特別専攻科

2011年度

所属	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	教育学研究科	特別別科特別専攻科*	他学部							他学部合計	合計		
	小学校	中学校	障害児	幼児教育				理学部	農学部	工学部	環境理工学部	マッチングプログラムコース	文学部	自然科学博士前期学系			社会文化科学博士前期	
(1)	18	5	3	0	0	2	0	13	0	0	0	0	0	1	0	0	14	42
(2)	8	6	5	0	0	4	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	29
(3)	12	10	7	0	0	3	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	8	40
(4)	16	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	5	25
(5)	7	1	4	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	4	18
(6)	12	4	3	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	4	25
合計	73	30	22	2	2	9	0	33	1	0	0	0	0	7	0	0	41	179
%	40.8	16.8	12.3	1.1	1.1	5	-	18.4	0.6	-	-	-	-	3.9	-	-	22.9	100

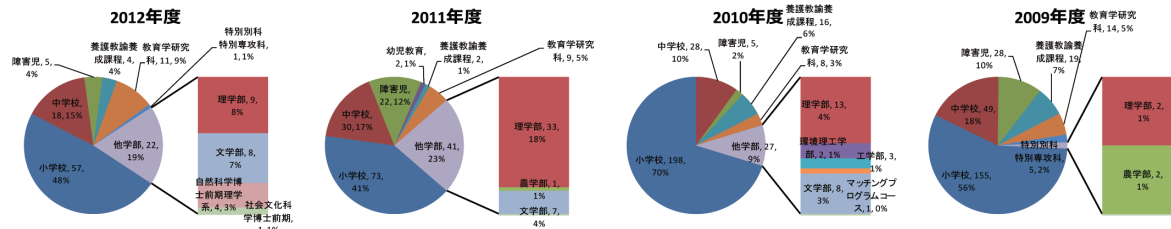
2010年度

所属	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	教育学研究科	特別別科特別専攻科*	他学部							他学部合計	合計		
	小学校	中学校	障害児	幼児教育				理学部	農学部	工学部	環境理工学部	マッチングプログラムコース	文学部	自然科学博士前期学系			社会文化科学博士前期	
(1)	44	11	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4	60
(2)	51	1	2	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	58
(3)	23	2	0	0	0	3	0	2	0	0	1	0	2	0	0	0	5	35
(4)	19	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	4	24
(5)	17	3	0	0	0	0	0	8	0	3	0	0	0	0	0	0	11	31
(6)	42	11	3	0	16	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	74
合計	198	28	5	0	16	6	0	13	0	3	2	1	8	0	0	0	27	282
%	70.2	9.9	1.8	-	5.7	2.8	-	4.6	-	1.1	0.7	0.4	2.8	-	-	-	9.6	100

2009年度

所属	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	教育学研究科	特別別科特別専攻科*	他学部							他学部合計	合計		
	小学校	中学校	障害児	幼児教育				理学部	農学部	工学部	環境理工学部	マッチングプログラムコース	文学部	自然科学博士前期学系			社会文化科学博士前期	
(1)	16	5	7	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	36
(2)	48	3	8	0	4	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	68
(3)	47	15	6	0	3	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	76
(4)	14	7	3	0	6	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
(5)	8	13	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
(6)	22	6	3	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37
合計	155	49	28	0	19	14	5	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4	274
%	56.6	17.9	10.2	-	6.9	5.1	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.5	100

受講者総数(過年度比較)



教育学部生を中心にして、スタートしたが、センターが全学化したことにより、他学部生及び大学院生の参加が年ごとに増加した。

V. 学生からの感想

●生徒指導に関する具体的な指導法や、指導をするにあつたての理論を知ることができ、とても勉強になりました。多くの事例を出していただき、また自分自身で考え、グループ討議をすることで、考えがより深まりました。ありがとうございました。

●たくさん考えさせられた。子どもに対する関わり方の正解はないからこそ、自分なりに本気で関わり、その子のことを理解したい。そのために今日学んだことをたくさん生かしていきたい。

●生徒の共感が乏しいというのは自分自身の経験からも納得できました。情報があふれているので、感情を経験からでなく知識として学んでいる傾向にあるとつくづく思いました。

●今日のお話をきいて、子どもに居場所をつくること、そして、その子に「あなたがいないと困るのよ」と伝え、強いつながりをもつことが大事だと学びました。保健室も子どもの居場所になるように…とよく言われますが、その子の居場所になれる保健室にできるよう子どもとの関わり、声かけを考え、つながりを大事にしていきたいと思いました。

●新聞というものを教育のツールにするということが自分の中になかったので、なるほど!!と思いました。“子どものために”何ができるのかという視点、真剣に取り組むという姿勢をしっかりと持ちたいと思います。

●この講座を受けるまで、そもそも「NIE」が何なのか、よく分かっていませんでした。しかし、南先生のお話を聞いていくうちに、新聞を子どもたちの教育に使うということが、こんなにも興味深いものなのかと驚き、とても話に引き込まれました。自分が現場に立ったときには、まずは子ども達の興味をひく材料として、そして授業内容をより充実したものにできるように、的確に新聞を活用していきたいと思います。

●王道だけではだめ。いろんな考え方、いろんな取り組みをもっと知りたいと思った。おもしろい考え方を、もっともっと生みだせる教師になりたい。南先生は子どもたちのことを本気で考えられているからこそ、このようなアイデアが生まれるんだと思いました。

●私は高校・数学の専攻で、あまり新聞を授業に用いることができる機会はないかもしれませんが、何よりも、生徒に授業に関心をもたせ、より理解しやすくさせるために、工夫をすることが大切だと感じ

ました。また、私は大学生生活で「人のために行動する」ということを心掛けてきたので、最後にあのようなお話もきけて非常に良かったです。

●NIEについての実践事例など参考になる点が内容面で多くあつただけでなく、それ以上に、若い先生がとても積極的に学校現場で活躍されている姿が、自分の目標となりました。私も積極的に手を挙げてたくさんの人から意見をもらいながら成長し続けたいという思いが強くなりました。

●先生方の授業のすごさはもちろん、情熱や子どもを思う気持ちがとても感じられて、いい刺激をいただきました。試験にむけての勉強の毎日ですが、心に残る講座でした。私もがんばろうと思えました。開いていただき、ありがとうございました。次回も参加したいです。

●外国語活動を行う前におさえておきたい部分について学べて、とても勉強になりました。特に「正しい英語」ではなく「通じる英語」を身につけさせたいというお話は、今まで、考えもしなかったことなので、とても刺激を受けました。

●英語は自分とはあまり関係ないと思っていましたが、授業内容を考える点で考えさせられました。

●具体的な小学校での外国語活動の授業（ゲームなど）について知ることができました。また、小学校での外国語活動はどうあるべきかも討論できて、自分の考えを深めることができました。これからの小学校での外国語活動を担っていく責任を感じました。

●様々なゲーム活動を知っているか否かは、大きく違うと思った。子供が楽しく英語活動ができるには、今回の様な講座を受けることが必要だと思った。

●学級づくりの実態を知ることができてよかった。回僚性、継続性など見につけたい。

●現場の先生のお話はとても貴重で今までとは異なる視点から考えることができてよかった。理想をもつことは大切だが、理想通りにはいかないことも多い現場での心構えにもなった。様々なアイデアをもち、その中から実行していく中で、クラス全体が成長していけるような学級づくりをしていきたい。

●キレイ事ではない、現場の先生の生の声や取り組み、生徒との関わり、同僚の先生方との関わり方などを聞くことができて、現場に出たときの様子を想像したり、心構えができました。ありがとうございました！

●現場で活躍されている現役の先生のお話を聞くこ

とができ、とても勉強になりました。“お菓子”の質問に対する受け答えなど、生徒との関係を保ちつつしっかりと自分の考えを伝えることのできる教師になれるよう努力していこうと強く感じました。またぜひ参加したいと思います。

●「ポリシーを持って取り組むこと」自分のポリシーが明確でないことにドキッとしました。形容詞では伝わらない…。具体例をあげることに。

「教える」ことばかりに着目していましたが、生徒に寄り添うことで、一緒に歩める教師になりたいです。

●今まで学級開きが大切だということは聞いていましたが、何をすればよいのか全く知りませんでした。どんな学級にするか、どんな子を育てたいか、自分のポリシーをもつことで、学級開きがスムーズに行えます。残りの学生生活の中で、自分の求める子ども像を明確にしていきたいです。また、たくさんの経験をしていきたいです。

●4月から実際に学校現場に立つということでも不安な部分が多かったが、今回、先生方のお話を聞いて、具体的に自分がどうするかを考える構えができたと思う。特にお話の中で印象に残ったのがポリシー。これをもっと今より明確なものにあと2ヶ月で作りに上げていきたい。

●今回学級開きというテーマでしたが、担任をもつことのない養護教諭を目指すものにとってもとても勉強になりました。“黄金の”10日間は養護教諭にとっても同じだと思います。ひきつぎによって注意の要する子や支援の必要な子をリストアップし、初めて会った時から名前呼びかけ関係を築くこと。とても大切なあと感じました。

VI. まとめ

本講座の意義について、本学教員から、教育学的見地に立って講話していただいた。このことにより、学生たちは、現場の実践的な報告の意義の大きさについて認識を深め、自分たちのこれからの現場での取り組みに生かしたいと考えるようになった。

昨年までの「2つの気づき」では、

第一の気づき：

講師からの基調提案を受け、学生同士が、それぞれの知識や経験を持ち寄って、議論することにより、自分が体験したことのない知識や経験を知る。この結果、個人が考えただけでは到達できないような結論を導き出す。

第二の気づき：

議論の結果を「まとめ」の際に発表した時に、「現実はそのものではない」と講師から、時には厳しく、時には諭すように指導される。又、基調提案の真髓がつかめていない場合、具体例を交えながら再度論される。

この二つの気づきに、この講座の意義があったと考えていたが、今回、大学教官の講話により学生たちは、これまでの気づきの大切さを一層広い見地から改めて認識できるようになったと考えている。

VII. 今後の課題

来年度から、「教職実践演習」と「教職実践インターンシップ」が本格的にスタートする。社会的な要請である実践的教育力の育成、即戦力の養成に応えるためにも、充実した取り組みが期待される。

一方、学生たちの気質は、失敗を恐れ慎重になること、理論に頼ろうとし自分なりの価値観、感情に自信が持てないこと、人とのかかわり合いを深める能力が乏しくなるなどの傾向がある。

このような状況を打破するためにも、現場での地道な実践に出会う機会を多くつくり、教師集団の仲間となっていく気力を養うことが重要だと考える。

VIII. おわりに

制度改革が進み、教師力の育成のあり方が模索されている。

本教師力養成講座が、その一助となればと願い、4年間で23回の講座を持つことができた。すべて、講師のご好意により実現できたものである。どの講義も録画し、参加できなかった学生たちにも、ビデオ視聴で継続的に指導可能となった。卒業までに1本でも多く視聴してほしいと考えている。

ここまで取り組むことができたのは、高橋香代前研究科長、加賀勝研究科長のご尽力で学長裁量経費の認可をいただいたこと、教師教育開発センター諸先生を初め、事務スタッフ皆様のご協力、とりわけ、小川潔先生、吉田紀子事務職員の献身的な取り組みのお陰であり、心から皆様に感謝申し上げます。

又、この講座の発案のきっかけは、前教育実践総合センター長の柳原正文教授のご示唆のお陰であり、改めて感謝申し上げます。

Title : Development of “A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers (4): a Program to Bring on Teachers with a High Degree of Specialization and Practical Leadership – To Cultivate the Practical Leadership Required for Teachers –

Yasumichi MATSUBARA, Kiyoshi OGAWA (Center for Teacher Education and Development, Okayama University)

Keywords: abilities required for teachers, practical leadership capabilities, teaching profession consultation

Abstract: “A training course to cultivate the abilities required for teachers” , on this extracurricular course, we focused on about six themes each year. The latest is the 23rd of all that we have organized since 2009. There were the students who came to the teaching profession consultation office with the fear of not being ready to be a teacher despite the fact that they had passed the teaching staff examination. We very much wanted to give those students more practical information and advice to combine theory with practice. We offered them this course as a way to let them have a lot of self-confidence hoping their having “power as teachers” before they finish University.

Now we think about the problem from another perspective. We hope that Center for Teacher Education and Development, Okayama University with this course will turn out competent new teachers and that they will meet the needs of the present severe conditions.
